

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|--------------------------|------------|-------------|
| 事業所番号 | 4773500030 | | |
| 法人名 | 社会福祉法人 憲章会 | | |
| 事業所名 | 東雲の丘認知症対応型共同生活介護事業所(2号館) | | |
| 所在地 | 沖縄県南城市大里字大城1392番地 | | |
| 自己評価作成日 | 平成31年1月22日 | 評価結果市町村受理日 | 令和 元年 5月 7日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | https://www.kenshoukai.or.jp/ |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | |
|-------|---------------------------|
| 評価機関名 | 株式会社 沖縄タイム・エージェント |
| 所在地 | 沖縄県那覇市上之屋1-18-15 アイワテラス2階 |
| 訪問調査日 | 平成 31年 2月 6日(水) |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・東雲の丘グループホームは広い敷地の中で2ユニットが隣接されています。さらにサービス付き介護事業所(ハナミズキ)や有料老人ホーム(マチュピチュ)、特別養護老人ホーム(ユニット型)、事業所内保育所(ナーサリースクール)なども近くに併設されており、相互間の交流を図ったり、緊急時や災害時にも連携がとりやすい環境になっています。又、入居者さんの自己決定がなされるよう声掛けに配慮ながらし、ドライブや地域行事への参加など外出する機会を促し一人ひとりがそれぞれの生活リズムで暮らしていただけるように努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人全体での行事などに近隣保育園、小学校や高校生ボランティアにも協力してもらい地域に根差した事業所となっている。EPAの職員の受け入れや法人のクラブ活動などでもコミュニケーションを図り、働きやすく、話しやすい職場となっている。法人の看護師と共有して健康管理を行う等、連携ができています。「くもん学習法」を取り入れ、学習目的だけではなく利用者の「いいところ」を探すことに役立っている。脳トレやコミュニケーションスキルとして活用し、そのための資格修得やマスタークラスの受講をしている。法人の年間行事に研修なども組み込まれ、職員全員が交代で研修できるようにしている。また、法人全体で「当直」担当の方が交代で1人いて、夜間の見回りや、何かあった時にはすぐに電話で切れるような仕組みと連絡先が張られていて夜勤時の安心感がある。また、2ユニットと小規模も同じ敷地内にある事から協力体制が整っている。利用者の短期目標や目標達成を日々のパソコンソフトへの入力から活用し職員全員が確認できるようにしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 |
|----|---|----|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | 64 | グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | 66 | 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12) |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う |
| 62 | 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28) | | |

自己評価および外部評価結果

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | ・事業所理念をグループホームの玄関先に掲示して、職員とご家族がいつでも閲覧出来るようにしている。年度初め(4月)には理事長が法人の理念について、全職員に対して講話があり共有を図っている。 | 事業所独自の理念があり、個人を尊重し、職員はスキンシップを交え利用者に話かけ理解することを実践している。理念は掲示され業務に入る前に確認したり、ミーティングで唱和し内容について共通認識を持てるようにしている。また、法人全体で理念について講話も行われている。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | ・利用者がご自身の出身地域のお祭りごとに参加したり、地域のミニディ利用者を法人内の地域交流ホールに招待して交流会を計画し実施した。 | 運営推進会議で地域の行事を把握知っている。公民館が改装している間ミニデイがお休みの為、民生員の協力を得て法人のホールで交流会を行った。近隣の保育園や佐敷小学校と交流があり、知念高校の生徒はボランティアとして行事の準備やのスタンプラリーを行ってくれた。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | ・認知症の啓発イベント(RAN伴 沖縄)などに参加。職員派遣を積極的に行っている。又、地域のミニディサービスとの交流会では認知症について理解を深めてもらうため法人職員(認知症指導員)が講話を行った。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 運営推進会議では、グループホームでの活動報告及び、ヒヤリ・事故報告書を行い、その中で参加者からの意見をヒントにサービス向上に努めています。その他、会議を通して地域のミニディ利用者との交流会の開催や地域のお祭りに参加出来たりと交流を持つことができた。 | 小規模と2ユニットグループ合同で年6回行われている。事業所の状況やヒヤリハット、事故報告後に色々なアドバイスをもらっている。家族からの意見で外出の本人も声掛けし参加している。会議終了後に、避難訓練の参加や法人の施設見学なども行っている。 | |

自己評価および外部評価結果

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | ・運営推進会議の中で情報交換や事業所のサービスの取り組みについて報告し、市町村担当者と他事業所との合同での勉強会の開催も今後計画している。 | 運営推進会議に市職員が参加し研修等の情報やアドバイスももらっている。南城市役所で市他事業所と合同でアンガーマネジメントの勉強会を開催、参加している。「くもん学習」のマスター研修の情報ももらい参加している。利用者の手続きに本人も一緒に市役所に出向いている。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | ・事業所内で身体拘束に関する資料を職員が目届く場所へ閲覧出来るように掲示している。また、法人内でも毎月、身体拘束会議を開催し他事業所とも情報共有しながら身体拘束しないケアに取り組んでいる。 | 法人内での研修や、毎月末に定期開催の法人会議で身体拘束について学習し、同じ日の午後から事業所ミーティングで職員に伝えている。気になる場合は職員同士で話し合い、管理者に相談している。職員はスピーチロックにならないよに言葉に気を付けた支援を行っている。 | |
| 7 | (6) | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている | ・高齢者虐待について法人内の研修で学べる機会を確保している。また、ミーティングの中でも利用者に対する配慮した声掛けなど話し合いをしている。 | 法人の研修年間スケジュールに「高齢者虐待防止」が組み込まれており、職員全員が順番で参加できるようにしている。事業所内でも研修に参加した職員からミーティング等で他の職員にも報告を兼ねた伝達研修を行っている。テレビや新聞で見た虐待のニュースについて話し合うなどしている。 | |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | ・法人内の研修で全職員がで学べる機会を確保している。 | | |

自己評価および外部評価結果

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | ・契約や凍結、解約又は改定などの際は、利用者・ご家族が理解しやすいよう、分かりやすい言葉で説明に努め理解・納得を図っている。 | | |
| 10 | (7) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | ・利用者へは日々の生活の中で意見・要望等を聞くように努めている。ご家族へは、面会時や行事、家族意見交換会を通して意見・要望等を聞くように努めている。 | 毎日面会に来て、お風呂と食事介助を行っている家族からの希望で「一人になる」時間を作っている。また、歌が好きなので沖縄民謡のテレビを見せて欲しいや本人から「家に帰りたい」の希望も家族の協力を得て叶えている。家族の意見は面会時や家族意見交換会などで聞いている。 | |
| 11 | (8) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | ・事業所内で毎月ミーティングを開催し職員の意見・思い・提案等を聞くように努めている。日々の実践の中では直接意見を聞いたり申し送り長などを活用し情報共有を図っている。 | 毎月のミーティング時や日頃の会話で職員から意見や提案を聞いている。職員からの意見で夜勤のシフト時間をずらし、しばらくの間試してみても業務改善がみられることから継続している。日頃から職員とは、話しやすく相談しやすいくなるようコミュニケーションを図っている。 | |
| 12 | (9) | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | ・毎年11月頃にストレスチェック表などで職員の思いを取りまとめている。管理者は、職員個々がいつでも相談・意見・提案等が話しやすいように配慮しています。 | 就業規則や育児・介護休業等の規定によりお休みも取りやすい環境である。研修も全職員が受講できるよう年間計画があり、勤務扱いでスキルアップに協力的である。法人内にある各種の運動クラブにも自由に参加できる。ストレスチェックも行われている。 | |

自己評価および外部評価結果

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------|----|--|---|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | ・職員へは、法人内外の研修を受講できるように努めている。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | ・法人外の研修会へ職員を派遣している。受講した職員が何かしらのヒントを得て、ケアに対する気持ちが前向きになるように研修へ積極的に派遣している。 | | |
| II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | ・サービスを導入する段階で、ご本人の思いに耳を傾け信頼関係の構築に努めている。又、ご家族さんからも情報収集(アセスメント)しながら、入所後もご本人が安心した生活が送れるように日々努めている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | ・サービスの導入時や面会時などに、ご家族の思い、要望等を親身に耳を傾け信頼関係の構築に努めている。 | | |

自己評価および外部評価結果

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | ・サービスを導入する段階で、現在、必要としている支援を見極め、法人全体でサポート・フォローするように努めている。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | ・グループホームの特徴である少人数で、家庭的な雰囲気を大切にしながら、日々の暮らしの中で顔なじみの関係の中で信頼を構築できるように努めている。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | ・ご家族とはご本人の日々の暮らしの近況を報告し、ご家族から職員へ相談しやすい雰囲気づくりに努めている。行事の中で家族意見交換会を開催し家族相互間の交流が図れるように努めている。 | | |
| 20 | (10) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | ・ご本人が生まれ育ったお祭りに参加したり、馴染みの場所へドライブに出かけたり、ミニディサービスへ参加したりと関係継続の支援に努めている。 | 南城市のミニディに参加したり、地域の綱引きを見にグループホーム合同で出掛け、利用者の知り合いから声をかけられたりする。ドライブ時には出身地や自宅近くのバス停の名前を利用者に声に出して読んでもらい「昔と変わってるね」などの会話から話を聞き出している。 | |

自己評価および外部評価結果

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | ・利用者同士の関係を大切にし、食事などは一緒に席で召し上がっていただくなど配慮し支援している。 | | |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | ・サービス利用が終了しても、必要に応じて経過をフォローした支援や相談に努めている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (11) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | ・日々の暮らしの会話の中で、ご本人の希望・意向の把握に努め、困難な場合はご家族さんから情報収集して、今までの希望・意向が尊重し継続出来るように努めている。 | 日頃の何気ない会話の中から拾い出し、今まで知らなかった趣味や昔の職業、那覇マラソンを完走したことなどを聞き、支援に活かしている。料理の話をしていると、野菜下ごしらえを手伝ってもらったり「天気がいいね」との会話から散歩に出かけたりしている。本人からのサインを見逃さない様に日々努めている。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | ・課題分析(アセスメント)やご本人、ご家族とのコミュニケーションを通してご本人の思いの把握に努めている。 | | |

自己評価および外部評価結果

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | ・ご本人の一日の生活するペースを大事にしながら、自立支援、自己決定が尊重されるように支援に努めている。 | | |
| 26 | (12) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | ・ご本人がどのように暮らしていきたいか現状の把握に努め介護計画書を作成している。日々の暮らしの中で課題等に情報共有しながら統一したケアがなされるように努めている。 | サービス担当者会議に、本人、家族も参加している。介護計画は基本は更新時に見直すか状態変化があれば、その都度見直している。24時間シートに記入された入浴時間、散歩、くもん学習療法、歌会等から本人の思いが反映された個別計画となっており、実施記録も時系列で記録されている。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | ・日々の記録は多職種間で共有できるシステムになっている。日々の様子の中で気づいたことはを個別に記入し情報共有しながら介護計画の見直しに繋げている。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | ・現在の、ご本人やご家族の状況に考慮し、既存のサービスに捉われない柔軟な支援に努めている。 | | |

自己評価および外部評価結果

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | ・個々のニーズに沿った安心した暮らしが支援できるように今現在ある、地域資源の把握に努めている。 | | |
| 30 | (13) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | ・訪問診療の受け入れも行っている。定期受診等のご本人、及びご家族の希望を大切に、受診の送迎の希望などがあれば対応も行っている。 | 利用者は入居前からのかかりつけ医を継続の方、本人及び家族の希望に訪問診療へ変更した方がおり、年1回は利用者全員が健康診断を受け健康管理をしている。受診は基本、家族対応だが状況に応じて送迎の支援等を行なっている。バイタルや水分・食事摂取量等の情報提供書を家族から医療機関に情報を提供し、受診後は家族からの口頭や医師から返書等にて報告を受け、受診結果はパソコンソフトに入力し職員全員が確認できるようにしている。 | |
| y | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | ・日中は法人内に看護師が常駐しており日常の個別記録でも共有を図っている。夜間でもオンコールの体制があり、いつでも相談できる体制が整えられている。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | ・入院した際は、定期的にお見舞いに出かけ、現在の病状等の把握に努めている。又、病院関係者と病状などで相談などがあれば法人の看護師も同行していただき相談、情報交換を行っている。 | | |

自己評価および外部評価結果

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 33 | (14) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | ・重度化した場合や終末期の在り方についてご家族と意見交換を行っている。その中で具体的に決まったことがあればチームとして共有を図っている。 | 法人が作成した重度化や終末期に向けた指針に基づき、事業所は重度化や終末期のケアを行なう方針で入居時及び状態変化時に説明を行っており、状態変化時には主治医からの説明も受けている。本人・家族からの希望があれば、本人・家族・主治医を交えての話し合いや職員研修・勉強会を行ない体制を整えている。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | ・急変や事故発生に備えてマニュアル等が整備されている。夜間などは法人の宿直者や隣接しているGH1号館職員とも連携しながら相談できる体制が整えられている。 | / | / |
| 35 | (15) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | ・年2回避難訓練を実施している。その内1回は島尻消防職員の方にも立ち会っていただき、地域の方々には運営推進会議の際に訓練に参加していただいている。 | 併設事業所と合同で、昼夜を想定した避難訓練を年2回実施している。法人職員、民生員、社会福祉協議会、消防署等の協力が得られている。法人全体で、夜勤とは別に宿直担当者を毎日配置しており緊急時に対応できる体制である。災害時に必要な設備が整っており、3日分程度の食糧等の備蓄がある。台風前等は法人からの注意喚起のメールを受信・確認し、対策に取り組んでいる。 | |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (16) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | ・排泄介助などへは羞恥心に配慮した声掛けの実施や排泄交換時に汚物を入れるものとして、トートバックなどを使用した対応を継続している。 | 施設入り口に掲示している個人情報保護方針及び利用目的をもとに、プライバシーに配慮している。職員は利用者と同じ目線でゆっくりと話をするように気を付けており、利用者の要望を会話やコミュニケーションの中から聞き取り、日常生活の中で発揮できるように調理への参加ができるような声かけや対応、日課の外出で気持ちが落ち着き穏やかに過ごせるように工夫している。 | |

自己評価および外部評価結果

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | ・職員は日常生活の会話の中で分かりやすい言葉がけで、ご本人が自己決定しやすい言葉がけになるように配慮している。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | ・具体的には起床時間や食事時間など、一人ひとりのペースで生活が送れるように支援に努めている。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | ・暮らしの中でご本人が出来ることは(整髪や衣類選びなど)ご自身で行っていただきながら、外出時などでは季節感に合った衣類選びが出来るように支援している。 | | |
| 40 | (17) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | ・温かいものは温かく、冷たいものは別皿に盛りつけるなど見た目にも美味しく召し上がっていただけるように工夫している。又、自宅で使い慣れた食器やお箸などを持参してもらい使用してもらっている方もいる。 | 朝と夕食、おやつは事業所で作っており、昼食のみ、法人内で作られた副菜を提供している。職員が交代で調理しており、利用者も野菜の下ごしらえや配膳・下膳を行ない楽しみながら食事ができるように工夫している。利用者の好みでパン食を提供したり、それぞれ好む食器を使用している。職員は利用者と一緒に同じ食事をとり、ゆったりした会話を楽しみながら食事をしている。 | |

自己評価および外部評価結果

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | ・法人内の管理栄養士が献立を作成している。又、個々の状態や力に合わせ事業所内で食事形態の工夫を行っている。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | ・ご本人の力に応じた口腔ケアを行っている。義歯等に不具合が発生すれば訪問歯科への提案を行っている。 | | |
| 43 | (18) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | ・一人ひとりの排泄パターンの把握に努め、排泄時間やパット選定の検討も適宜行っている。 | 排泄チェック表を用いて一人ひとりの排泄パターンを把握し、声かけ等でトイレで排泄ができるように支援している。夜間も安全面を配慮し、本人・家族の希望によりポータブルトイレを使用するなど、おむつの使用を減らす工夫をしている。排泄状況も把握し、薬の調整や飲食物等で便秘対策に取り組んでいる。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | ・便秘の予防と対応については、水分補給の確保と食物繊維の提供、内服の調整等で個々に応じた対応をしている。 | | |

自己評価および外部評価結果

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 45 | (19) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | ・可能な限り、希望に応じた入浴支援になるように努めている。拒否が強い入居者に対しては、環境等を整え声掛けするタイミングや言葉がけに配慮した対応を行っている。 | 週3回の入浴で個浴を基本としているが、利用者の要望によって時間や回数に対応している。入浴を嫌がる利用者には、対応する職員やタイミング、声かけの仕方を工夫している。利用者はそれぞれ好みのシャンプーなど、個人用の入浴用品を常備している。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | ・これまでの習慣を大切に、安心して休んでいただけるように居室の空調設定などにも配慮した支援を行っている。 | | |
| 47 | (20) | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | ・職員が一人ひとりの薬の内容を確認できるように、個々の薬事情報をファイリングし閲覧出来るようにしている。又、誤薬予防の点からもチェック機能の徹底に努めている。 | 法人のマニュアルに沿って、法人の看護師が薬を管理しており、1日分を配薬したファイルを事業所職員が法人施設に受け取りに行っている。ファイルを受け取る時、事業所に戻り、薬箱にセットする時、与薬の時に名前と薬袋を確認し誤薬予防に努めている。薬の内容については、全職員が閲覧できるように個々にファイリングされた資料を確認し、薬内容の変更時には申し送り時にも共有している。 | 法人のマニュアルはあるが、事業所独自のマニュアルが確認できない為、事業所独自のマニュアルの整備が望まれる。 |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | ・一人ひとりの能力に合わせて食事に使用する野菜の葉を摘んでもらったり、食事のメニューをボードに書いていただいている。又、気分転換にドライブに出かけたり地域のイベントに参加したりもしている。 | | |

自己評価および外部評価結果

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 49 | (21) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | ・余暇活動への参加での外出や、ドライブを実施しながら、途中でご本人のご自宅へ顔を出したりと個々の意向に沿った支援の工夫を行っている。 | 利用者の要望に沿って、法人職員の協力も得ながらほぼ毎日朝・夕のドライブ外出を実施している利用者もいる。また、日常的に敷地内を散歩したり、個別での外出の際は利用者の自宅周辺をドライブしたり、実際に自宅に寄る事もある。季節ごとに初詣や浜下り等の行事で外出する事もある。 | |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 現在、ご本人が直接お金を管理している方はいないが、事前にお金をご家族から預かり買い物支援や事業所へ来る訪問のヤクルトを購入したりするなどの支援を行っている。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している | ・ご家族、ご本人の希望があればいつでも電話や手紙のやり取りが出来るように支援している。 | | |
| 52 | (22) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | ・掲示物は車いすの方でも見えやすいように低く掲示している。移動の邪魔などにならぬように、障害物を撤去し可能な限り広く使えるように配慮している。 | 玄関前にはベンチが設置されており玄関前でおやつを食べる事もある。共用空間には木材のテーブルや椅子があり、利用者の状態や相性等を考慮して席の配置をしており、それぞれが自分の席でくつろいでいる。テレビは利用者の知人が出ている番組や民謡番組を流している。掲示物や飾り等は低めにするなど、利用者の目線に合わせており、トイレやおふろ、居室の場所もわかりやすく表示している。 | |

自己評価および外部評価結果

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | ・仲の良い利用者さん同士で一緒に席に座り食事を摂ったり、体操をしたりしながら共有空間で一人ひとりが快適に過ごしていただけるように配慮している。 | | |
| 54 | (23) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | ・居室はご本人にとってのプライベートスペースであることを念頭に可能な限り入り口の開放は行っていない。又、使い慣れた家具などを持ち込んでもらい、快適に過ごしていただけるように配慮している。 | ベッドとタンスは事業所の備え付けがあるが、使い慣れていたベッドを持ち込んでいる居室もあり、利用者の希望や状態に応じて家具の配置をしている。また、テレビやソファ、チェスト、ぬいぐるみや家族の写真などを持ち込み、利用者それぞれが落ち着いて過ごせるような居室づくりをしている。居室は基本的にはドアを閉め、プライバシーに配慮している。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | ・居室やトイレには分かりやすいように文字を大きく掲示したり、一人ひとりが安心した生活を送れるように工夫をしている。 | | |

目標達成計画

作成日: 平成 31年 4月 24日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

| 【目標達成計画】 | | | | | |
|----------|------|--|---|--|------------|
| 優先順位 | 項目番号 | 現状における問題点、課題 | 目標 | 目標達成に向けた具体的な取り組み内容 | 目標達成に要する期間 |
| 1 | 47 | ○服薬支援 法人のマニュアルはあるが、事業所独自のマニュアルが確認できない為、事業所独自のマニュアルの整備が望まれる。 | 服薬支援について、事業所独自のマニュアルを作成、周知を図り、さらなる誤薬予防に努めていきます。 | 平成31年3月末を期限に、服薬支援について事業所独自のマニュアルを作成していきます。 | 1ヶ月 |
| 2 | | | | | ヶ月 |
| 3 | | | | | ヶ月 |
| 4 | | | | | ヶ月 |
| 5 | | | | | ヶ月 |

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。